

午後Ⅱ試験

問1

出題趣旨

情報システムの個別監査計画において、対象となる情報システムの特徴、リスク評価結果などを考慮して、監査の重点項目・着眼点を設定し、それに対応する適切な監査手続を作成する。一方、監査手続の作成において監査資源の制約などの理由で本来必要と考えた監査手続が採用できない場合には、代替手続の選択・適用に加え、監査リスクへの対応方法を適切に計画することが必要となる。

本問では、システム監査人として、情報システムの特徴やリスク評価結果などを適切に分析して重点項目・着眼点を適切に設定し、本来必要と考えた監査手続が採用できない場合における監査リスクを明確にし、その対応方法を計画できる知識・能力などを問う。

問2

出題趣旨

情報システムの改変によるシステムの複雑化・高度化に伴い、システム障害の影響がますます大きくなっていることから、障害の発生を防ぐとともに、発生時の影響を最小にすること、再発を防止することが重要になる。

一方で、システム障害がどの箇所でいつ発生するのかの予測は困難であり、外部接続先の情報システムの障害による影響なども想定される。このような状況を踏まえて、システム監査人は、改変後のシステム障害管理態勢が構築され、実効性があるかどうかを確かめる必要がある。

本問は、システム監査人として、改変後のシステム障害管理態勢の実効性を確かめるための着眼点について具体的に論述することを求めている。論述を通じて、適切かつ十分な監査証拠を入手し、検証、評価するための知識・能力などを評価する。